

佐藤政義 サトウマサヨシ 舊幕臣、蘭學者。文政四年十一月出初國飽海郡遊佐
 郷高瀬村生れ、明治十年八月二十日歿（八二一七）。通稱與之助。號李
 山、笠溪。初の郷儒伊藤鳳山に學ぶ。嘉永五年高島流廣木賢助の門に
 入り砲術を傳習。次ぐ勝海舟の節筆して蘭書等を研鑽。安政二年四川
 臺場詰砲術方、翌年御臺場勝手役となり、海舟と共に長崎に赴いて蘭
 人フルベツキに就き、高島秋帆と交はる。六年軍艦操練所蘭書翻譯方
 出役、文久二年大坂御臺場建築御用、元治元大坂城外非常大砲指揮役
 等の要職に任じ、その功勞精進を賞して、嘗てアレン入皇帝ヲポレオ
 ン二世より將軍家茂に贈られた望遠鏡が下賜せられた。また夙に横濱
 開港論を唱へ幕府に建言、海舟のようこの議を成せしめた。維新後
 鐵道助として東京横濱間の鐵道敷設に盡瘁。病を獲て海舟の如く歿す。
 「礦山地殼學」、「二面惑問」、「時計必携」等の著述を遺した。
 栗原清一編『佐藤政義先生遺物展覽會録』附小傳（昭和二年十月）一
 十八頁神奈川・横濱郷土史研究會）刊。

